

秋の全国交通安全運動に参加し、反射材ツールを配布

～大阪府、大阪府警察、兵庫県警察と連携し、交通安全を呼びかけ～

日本損害保険協会近畿支部（委員長：東口 嘉仁・三井住友海上火災保険株式会社 執行役員 関西地区担当）は、9 月 21 日（日）から 30 日（火）までの 10 日間にわたり実施された「令和 7 年秋の全国交通安全運動」にあわせ、大阪府および兵庫県で開催された交通安全啓発イベントに参加し、交通安全および交通事故防止を呼びかけました。

9 月 23 日（火）には、大阪府堺市西区の府営浜寺公園で「2025 おおさか交通安全ファミリーフェスティバル」が開催されました。大阪府や大阪府警察をはじめ、交通安全に取り組む各種団体や民間企業が参加し、当協会は来場者に向けて「反射材ツール（夜間の視認性を高めるグッズ）の着用推進」や「運転中・歩行中のながらスマホ防止」などを呼びかけました。

同日、兵庫県神戸市須磨区の須磨パティオでも「反射材普及推進キャンペーン in 須磨パティオ」が行われ、兵庫県警察や民間企業が参加しました。会場には「服の色と反射材着用時の視認性体験ブース」や「反射材スコープによる反射効果体験ブース」などが設けられ、当協会も反射材ツールの重要性を来場者に伝えました。

両イベントでは、来場者から「子どものカバンに反射材をつけたい」「高齢の親の靴に反射材をつけます」といった声が寄せられ、反射材ツールを積極的に手に取って、必要性を実感いただきました。

当支部では、今後も関係機関と連携し、地域の交通安全と交通事故防止に向けた啓発活動を続けてまいります。



会場ステージの様子（大阪府）



来場者に反射材ツールを配布する様子（大阪府）



会場の様子（兵庫県）



来場者に反射材ツールを配布する様子（兵庫県）